

# 地球温暖化防止活動推進員の活動を支援しています

～2019年度 推進員第2回スキルアップ研修会～



1月15日に「ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸」にて推進員第2回スキルアップ研修会を開催しました。この研修会は、推進員第1回・第2回全体研修会、推進員第1回スキルアップ研修会に続く、本年度最後の研修会となります。活発な意見交換を通した情報共有と推進員の皆様のスキルアップを目的としたもので、市町村職員を含め106名の参加で盛況裡に開催できました。

## 第1部 「気候変動適応法施行から1年、策定等にとりかかる自治体の現状」

環境省関東地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官 川原博満氏

初めに、気候変動対策としての緩和策と適応策、緩和策である地球温暖化対策推進法と、適応策である気候変動適応法の現在の動きについてご説明いただきました。次に、各都道府県や市町村での気候変動適応計画の策定は努力義務となっていますが、気候変動に適応していくには必ずしも大きな取組を必要とせず、その対策を大きく捉えずに、できることから計画に盛り込んでいくことが気候変動適応計画の策定へ向けての第一歩であることを説明いただきました。また、地域での気候変動適応計画の策定は、環境基本計画や温暖化防止実行計画の改定や見直しのタイミングで行っていくことが望ましく、それには、地域住民や環境保全団体、地球温暖化防止活動推進員等と連携している地球温暖化防止活動推進センター（当茨城県センター）や、地域での適応へのデータ収集や提供等を行なっている気候変動適応地域センター（茨城大学）を活用していくことで、スムーズに策定まで運べること等をご説明いただきました。



## 第2部 基調講演「気候変動に積極的に取り組む行方市」 行方市長 鈴木周也氏

初めに、行方市の紹介から講演が始まりました。行方市は、昨年度、環境省気候変動適応関東広域協議会の自治体メンバーに県内で最初に登録した市町村です。

また、行方市には千年以上自然的や社会的な災害・変化を乗り越えて生産と生活が持続的に営まれてきた集落・地域では、長期的生存にまつわる仕組みが育まれているとされる「千年村」の候補



地が数多く存在し、この千年村から災害を乗り越えていく生活の仕方を学ぶ千年村プロジェクトのなかで、認証千年村第1号にも認定されています。

さらに、県内首長として、はじめて気候変動対策の推進をしていくことを今回の講演を通じて表明していただき、年2回の霞ヶ浦・北浦地域の清掃活動を行なって水質浄化の対策、盛んな農業・水産業とともに教育と観光をマッチさせる持続可能な行動のしかけや実行についてと、とても参考となるお話をしました。

### 第3部 SDGs環境事例講演

#### 「気候変動の地元学」の取り組み「気候変動の藤野学」2020

特定非営利活動法人 ふじの里山くらぶ 副理事長 野口正明氏

神奈川県相模原市の藤野地区の里山を市民協働で再生し、“気候変動の藤野学”として気候変動が藤野地区に及ぼす影響について、法政大学の白井信雄教授の指導のもと、有志の住民主体での環境調査や調査結果から水土砂災害対応・鳥獣被害対応・健康被害対応等のテーマを絞り込み、土砂災害と洪水への備え等を学ぶ勉強会を開催し、気候変動に備える対策事例について活動してきたことの説明がありました。しかし、昨年の台風19号の猛威の前にはまったく無力であること痛感したそうです。そして、再出発に向けて、一部の住民有志だけの活動から、自治会やトランジションタウンなどとの連携による住民主体のより大きな活動に広げていき、さらには行政や政治も巻き込む展開にしていきたいとの考えを持つようになったそうです。台風19号の被害を受けた後の勉強会では、藤野地域内で同種の活動を行なっている自治会やコミュニティカフェの方を招き、積極的な情報交換を行ったことや、参加者数の倍増し、参加層が移住者や女性、子育てのお母さんらが新たな層として加わったことなどが紹介されました。



#### 「自然と融合するまちづくり 20年度取組」

茨城県環境アドバイザー 小菅次男氏

那珂市芳野まちづくり協議会会長 桧山公明氏

まず、桧山会長から、那珂市の芳野まちづくり協議会活動の歴史の紹介がありました。続いて、茨城生物の会の小菅会長から、芳野地区で20年間行ってきた農村整備に係る環境まちづくり、県内に進出している外来種問題、温暖化による固有種への影響などについて解説していただきました。とても参考となる研修会となりました。



今年度の4回にわたる研修会を開催するにあたり、お忙しいなか、快くご講演を引き受けくださいました各講師の皆様に改めましてお礼申し上げます。